AYA cinema

2019.06 発行
Studio AYA
http://studioaya.com

映画「Start Line」がスイスの映画祭に招待されました!!

(2019.5.23-26 チューリッヒにて)

普段はスカートをはかないのですが、この日ははきました!

ドイツ・ニッポンコネクション 観客賞

全州国際映画祭 正式招待

あいち国際映画祭 CineraJapan Festival 他

海を越えて広がる「Start Line」

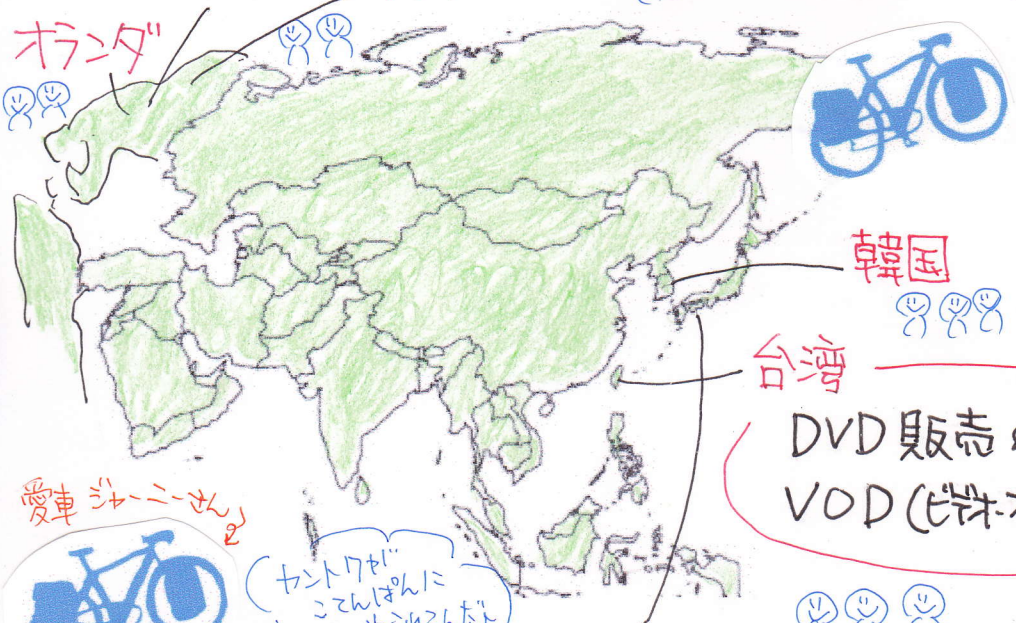
HPもぜひ見てね

練習曲っていうんだ〜

スイス

スウェーデン

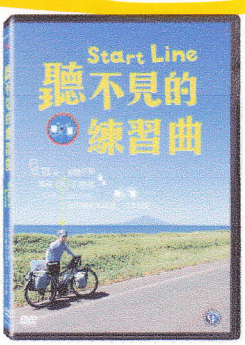
オランダ



韓国

台湾

台湾版のDVD



DVD販売&
VOD(ビデオ・オン・デマンド)で放映中!!

カントク

愛車 ジャーニーさん

カントクがこてんぱんにやられるんだよ

おもしろいんだよ〜

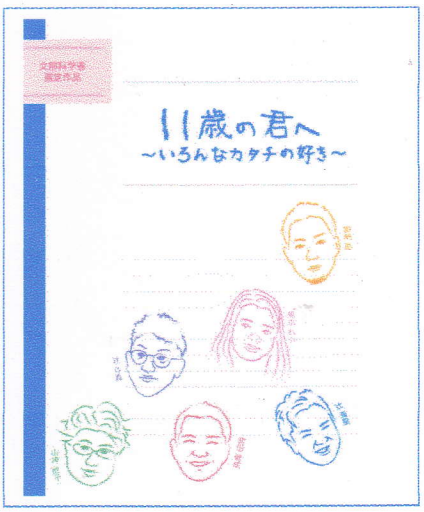
日本では21都道府県の劇場公開(2016〜2017)
自主上映を展開中

でも一番たのしんでいたのはこの人

「Start Line」はスタートライン

ニッポン中のたのしう人のための映画です。

DVD「11歳の君へ ～いろんなカタチの好き～」が 文部科学省選定 に選ばれました!!



生涯教育、企業・学校の研修などで
活用して頂いています。

大須にじいろ映画祭
にしびりかの映画祭
さがの映像祭 など
正式招待

視聴者の声

聞こえない人、LGBTの人がいることは
知っていても、両方の特ちょうがある方が
いることは想像もつきませんでした。
（40代 女性社員）

HPもあるので
ぜひみてね

中日新聞
2017.8.8
→

朝日新聞、読売新聞でも
紹介して頂きました。

なぜ「11歳」なのかというと…。
人も好きになる平均年齢が
11歳だからです。
小さい子どもから大人まで見て
考えることのできるDVDです。

聴覚障害×LGBT 自分らしく生きる

名古屋の映画監督 DVD制作中

撮影の打ち合わせをする今村彩子さん㊧と前田健成さん＝東京都港区で

耳が聞こえない映画監督の今村彩子さん㈢＝名古屋市緑区＝が、聴覚障害があるLGBT（性的少数者）をテーマにしたドキュメンタリーのDVDの制作を進めている。障害と性的マイノリティーという二つの困難を抱えながら、自分らしく生きる姿に焦点を当てる。今村さんは「多様な生き方を知ってもらうことで、誰もが生きやすい社会の実現につながれば」と話している。（社会部・立石智保）

東京都港区にあるギャラリーでの撮影。「いろんな色があるように、幅広くいろんな性があります」。今村さんが回すカメラの前で、東京のろう学校で教員を務める前田健成さん㈢がLGBTの基礎知識を手話で解説した。自身も同性愛者で、耳が不自由だ。

今村さんがDVDの制作を思い立ったのは、昨秋、友人の男性にゲイだとカミングアウトされたのがきっかけ。LGBTに関する本を読んで勉強するうちに、「自分らしさ」や「男らしさ」が求められる社会に疑問を感じるようになった。

撮影の準備で多くの話を聞く中で、聴覚障害があるLGBTには特有の生きづらさがあることが分かってきた。障害がないLGBTの人たちの集まりに加われなかったり、加わろうと思っても同性愛者であることが分かってしまうのが怖くて、一般の手話通訳を頼めなかったり。今村さんは彼ら、彼女らが「孤立」していると感じ、ドキュメンタリーの制作を決めた。

DVDの手話担当を買って出た教員の前田さんは、大学生だった二十二歳で同性愛者を自覚した。でも、「障害で苦労を掛けたのに、また負担を掛けてしまう」と思い悩み、六年ほどの間は親にカミングアウトできずにいた。今は「まず、存在を知ってもらうことが必要だ」と感じている。

撮影に向けた取材の中で聞いた「好きになった相手がたまたまこの人だった」との言葉。監督としても、人としても共感した今村さんは「受け入れてくれた家族や職場の同僚のインタビューなども盛り込み、今の社会に困難を感じて悩んでいる人が希望が持てるような内容にしたい」と話す。

DVDのタイトルは「11歳の君へ～いろんなカタチの好き～」。思春期に差し掛かり、性に悩み始める世代に見てほしいとの願いを込め、今秋の完成を目指している。「ろう・難聴×LGBTの子どもたちに、500人のエールを届けたい！」で検索できるクラウドファンディングのサイトで、制作費の寄付と応援メッセージを募集している。